

メッカル分析サービス 医療材料マネジメントセミナー (概要)

高齢者医療の提供を
地域で連携
しながら進めていく



日本の総人口は2004年をピークに、きわめて急激な減少となっている。2050年には、高齢者の割合が約40%と見込まれており、3人に1人が65歳以上となる。こうした状況の中で注目したいのが「高齢者のお看取りの数」である。死亡者数は2040年ごろにピークを迎え、それ以降は減るわけではなくピークの状況が続いていく。

今回6年に一度のトリプル改定（診療報酬改定、介護報酬改定、障害福祉報酬改定）では、医療と介護と障害福祉を連携しながら、総就業者数の増加を目指すとともに、より少ない人手でも回る医療・福祉の現場を実現させるための改定が盛り込まれている。本セミナーではそうした高齢者医療のパッケージに備えるべく、新たに追加された診療報酬制度について紹介した。

2024年度トリプル改定の概要と 高齢者医療パナデミックへの対応

多摩大学大学院 客員教授
ヘルステクアビジネス経営人材育成研究所 所長
石井 富美 先生

医療従事者の皆様にご活用いただけるような
情報発信を目的に **5月22日水**
メッカル分析サービス
医療材料マネジメントセミナー
を開催いたしました。現地とオンライン、合計165名の参加者が集まる中、3名の講師に異なるテーマについて
ご講演をいただきました。

病院経営への貢献という視点から見る 用度課の働き

医療法人恒尚会兵田病院 顧問
行本 百合子 先生

病院の用度課は、病院経営に大きく貢献ができる部門であるが、その重要性に気づかれることが少ない。そのため用度課職員も業務への挑戦や勉強の必要性を感じられず、言われたことを言われたままにすれば良いように思っているくらいがある。しかし決してそうではない。

本セミナーでは、用度課の職員が自分たちの業務の重要性を深く自覚し、使命を持って働くことで、病院の健全経営に貢献できることを紹介した。

▼用度管理者に求められること

- ① 用度管理担当者は医療従事者とともに病院の理念の実現を目指して、適切な経営管理（支出管理）を行うこと。
- ② 事務作業に甘んずることなく、患者さんを中心に置いた経営管理（支出管理）業務を遂行すること。
- ③ 医療内容を理解する努力により、医療従事者に寄り添うこと

これらを実現するためにも、**必要最低限の医療知識を身に付け、「患者中心の支出管理」**を適切に実践することが重要である。

メッカル分析サービスを使った地域連携の事例

ライバルからユニットへ

滝川市立病院 事務課 経営管理係
主査・経営専門員
畑原 秀樹 先生

北海道のほぼ中央部に位置する中空知地区は、人口減少と高齢化が深刻な問題になっている過疎化地区である。この状況に危機感を持った地域の病院では、同じ不安や課題を解決するために地域連携の取り組みを2017年から始めている。自分たちの情報（購買データ）をさらけ出すことで、不利益につながるのではないかと、という疑心暗鬼は当然あった。しかし勇気を出してその一歩を踏み出した結果、今までライバル同士だった病院をユニットへと導いた。

本セミナーでは、地域の公立6病院でメッカル分析サービスに入会し、お互いの医療材料購買データを開示しながら、地域の課題を考え、解決するための取り組みを紹介した。



ご興味のある方は
是非お問合せください